畜　産

現在、昼と夜の寒暖の差がある季節になっております。牛にとって体調を崩しやすい時期でもあります。個体管理を十分に行い、異常のある牛を確認したら早期の治療をして下さい。

肉牛に対する粗飼料・稲ワラの効用について

粗飼料・稲ワラは、ルーメン発酵のための調整剤、胃づくりを行うための刺激物として考えられ、粗飼料の価値やルーメン発酵での効果的な働きを忘れがちになっています。

多くの肉牛生産者は胃づくりの時期が終わると、稲ワラを積極的に食べさせる飼養管理を軽視しがちになります。稲ワラの食べる量は牛任せになり、当然、稲ワラの摂取量も少なくなります。その結果、ルーメンアシドシーシスや肝臓障害、食い止まりや突然死が発生しやすくなるようです。

肥育全期間を通じて、粗飼料・稲ワラをしっかり食べた肉牛は枝肉成績が良いばかりではなく、瑕疵や突然死などの事故、肝膿瘍などの疾病も少なくなります。さらに、濃厚飼料の摂取量が安定すると良い成績が期待できるとともに、肥育が楽になります。

粗飼料・稲ワラが脂肪の原料（サシの素）

《畜産課：川野 義彦》

JA新採用職員が農家実習!!

当ＪＡは、農作業を通じて農業に親しみ、農業・農家の実情を理解するとともに組合員との対話を通してＪＡ職員としての自覚を持つために農家実習を行っています。

今年も、新採用職員９人が３月２６日、２７日の２日間農家実習に取り組みました。新採用職員は「大変貴重な体験が出来ました。今回の実習を、今後の仕事に活かしていきたいです。」と話していました。

岩満さんのハウスでの実習の様子

炭床さんのハウスでの実習の様子

【お世話になった農家の方】
岩満　清さん　（東支所）
炭床　稔さん　（東支所）
立山　健二さん（中央支所）
大変お世話になりました。
ありがとうございました。

立山さんの牛舎での実習の様子

★☆★☆ ４ヶ月連続 畜連史上最高値を更新!! ☆★☆★

３月期子牛セリ市風景

（単位：頭、円）

増減比較表	性別	今回(27年３月) 頭数	今回(27年３月) 平均	前回(27年２月) 頭数	前回(27年２月) 平均	前回(27年２月) 増減	前年(26年３月) 頭数	前年(26年３月) 平均	前年(26年３月) 増減
	雌	465	609,398	448	610,354	-956	468	517,187	92,211
	去	586	686,303	491	685,839	464	547	603,187	83,116
	計	1,051	652,277	939	649,825	2,452	1,015	563,534	88,743

平成27年3月期子牛セリ市支所別結果表

平均価格65万2千円

（単位：頭、円）

支所	性別	頭数	総平均	前回２月平均価格	前年３月平均価格
小林	雌	235	605,587	605,158	513,856
	去	275	686,383	690,224	602,516
	計	510	650,877	650,770	561,663
高原	雌	132	615,428	608,076	518,715
	去	163	683,950	682,050	599,047
	計	295	654,113	644,423	563,102
野尻	雌	83	609,586	633,072	516,802
	去	93	694,153	681,101	609,417
	計	176	652,385	658,811	565,741
須木	雌	18	607,114	567,990	551,250
	去	16	678,008	683,064	620,681
	計	34	654,377	631,920	583,923

茶

茶の品質向上を図りましょう!!

●製茶工場の管理について

間もなく一番茶の摘採・製造が始まりますが、試運転を行い機械のバネ圧等の設定や整備を実施しましょう。また近年、消費者の食に対する安心・安全・信頼性の確保の意識が高まっています。製造過程において異物混入が発生しないように工場内の整備用工具等の管理や拝見盆の枚数確認等を行って下さい。

●病害虫について

気温上昇に伴い新芽もどんどん成長していきますが、病害虫等の発生も多くなってきます。特に霜害を受けた茶園等では多発する場合があります。防除が遅れると、品質の低下や収量減となってしまいますので茶園をよく観察し早めに防除を行ってください。

●肥料について

春肥は生育収量に対する効果は秋肥より低く、品質に対する効果は逆に高いと言われています。春肥のポイントは『芽の生育にあわせて肥料が吸収される』ことです。施肥された肥料分が萌芽の直前に効きはじめて摘採直前にピークになるのが一番の理想です。選択した肥料・品種・芽の進み具合・天候などを参考にしながら肥培管理を行いましょう。

●防霜対策について

防霜対策が最も重要な時期になりました。霜害をうけると一番茶の収量が大幅に下がります。各圃場付近の気温に注意し防霜ファン・スプリンクラーの稼働中には点検・見回りを十分に行って下さい。

≪茶担当：池田 成諒≫

水稲

普通作物（水稲・麦類）

●米づくりは土づくりから

土づくりは、土壌を改良することによって、作物にあった土壌環境を整えることが大切です。

年による気象変動に強い、丈夫な稲を栽培するために土づくりを行い、健全な根を張らせ、栽培期間中に養分・水分を十分に吸収できる環境を作りまよう。

堆肥等の有機物は養分として働くだけでなく、排水性や保肥力が高くなるなど総合的な土壌改良に有効です。適正な施肥を行いましょう。

ただし、やり過ぎは品質食味低下の原因となりますので地力にあった適量な施肥を行いましょう。

●「小麦・大麦」赤かび病防除について

麦類の一回目防除が始まります!!

●赤かび病とは・・・麦類に発生する最重要病害です。
穂に病原菌が感染することで、粒の肥大を阻害したり、穂全体が枯死し品質・収量に多大に影響します。
また、赤かび病の生産するデオキシニバレノールによる健康被害を防ぐ観点から、赤かび病の被害粒があった場合は農産物登録検査において規格外に格付けされます。

●多発要因・・・本病は稲の刈株などに付着又は、寄生し越冬します。春になると子のう胞子を放出し空気伝染します。麦の出穂前後から乳熟期にかけて曇天・少雨が続き、温度が高いと多発します。

●防除時期・・・出穂及び登熟が早い場合は下記に限らない。
小麦・・・4月中旬～4月下旬
大麦・・・4月上旬～4月下旬

●対策・・・本病に対しては有効な薬剤が確立しています。
1回目・・・トップジンM水和剤又は、トップジンM粉剤DL
2回目・・・チルト乳剤25
※2回目防除は、1回目の7日後散布
適期防除を行い健全で品質の良い麦を作りましょう。

≪水稲担当：織田 泰生≫

平成２７年４月後期/５月前期　青果物受入計画一覧表

〔○印：集荷日，×印：集荷休〕

受入日	平成27年 4月															平成27年 5月													
品目	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
市場休市				日曜			休市				日曜			祭日				休市	一部開市	休市	一部開市				日曜			休市		
胡瓜(個選)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	品目ごとの受入計画を別途作成致します。（集荷場に掲示致します）						○	○	○	○	○	○	○	○	○
胡瓜(共選)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○							○	○	○	○	○	○	○	○	○
ピーマン	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○							○	○	○	×	○	○	○	○	○
ゴボウ	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○							○	○	○	×	○	○	○	○	○
里芋	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○							○	○	○	×	○	○	○	○	○
ニラ	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○							○	○	○	×	○	○	○	○	○
菌茸類	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○							○	○	○	×	○	○	○	○	○
アールスメロン	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○							○	○	×	○	○	○	○	○	○
いちご	○	×	○	○	×	○	○	○	×	○	×	×	○	○	○							○	×	○	○	×	○	○	○	×
花卉	×	×	○	×	○	×	○	×	×	○	×	○	×	○	×							×	×	○	×	○	×	○	×	×

※集荷所の定休日は日曜日です。ご協力をお願い致します。※品目により販売日が異なりますのであらかじめご了承下さい。（園芸農産部 販売課）
※市況はテレフォンサービス、コスモネットこばやしをご利用下さい。（テレフォンサービス：TEL.**23－5858**）